

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 25 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏 名	山田 耕生
研究課題	ニューツーリズムが地域活性化に及ぼす影響について				
研究キーワード	エコツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光、コンテンツツーリズム	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	13. 気候変動に具体的な対策を	選択してください（プルダウン）	

1. 研究成果の概要

本研究では現在の観光の潮流として、明確なテーマを持った体験・交流型の観光、つまり“ニューツーリズム”が志向されていることを踏まえ、ニューツーリズムのテーマのなかで、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光、コンテンツツーリズムを抽出し、それぞれのテーマ観光の実態、地域に与える影響、問題などを明らかにした。それぞれのテーマ観光に取り組んでいる地域を訪問し、そのテーマ観光に参加すると同時に、地域の担い手（主に自治体）へのインタビューから分かった点は以下のとおりである。

【新潟県佐渡島】

- ・島しょ（離島）の観光「アイランドツーリズム」の事例として調査。佐渡金山は数年後に世界文化遺産登録が有力視されている。島しょ観光全体が抱える課題の1つに島内移動ネットワークが弱いことがある。
- ・佐渡の場合も島内の移動は路線バスやレンタカーなどに頼らざるを得ないため、主要な観光ポイントのみに立ち寄り、全体的に滞在時間が少ないため経済効果が弱いことが分かった。

【福島県富岡町】

- ・2011 年の東日本大震災からの復興ツーリズムの事例として調査。富岡町では東京電力福島第一原子力発電所の視察ツアーを実施している。
- ・ツアー参加者は団体客、企業や学校からの視察に限定されている。放射線量が高い地域であるため、一般客の自由な受け入れにはまだ時間がかかりそう。
- ・震災遺構の保存は進んでいるものの、避難者が地域に戻って経済活動を行っているケースは非常に少なく、観光入込が経済効果に結びついていないのが現状。

【福井県勝山市】

- ・「恐竜」をテーマにしたコンテンツツーリズムの事例として調査。2024 年 3 月に北陸新幹線延伸もあり福井県全体的に観光入込客を伸ばしている。
- ・勝山市では市を挙げて「恐竜」を前面に打ち出した観光政策に取り組んでいる。恐竜博物館のほか、市内に恐竜のオブジェを点在させたり、恐竜に関連した土産品を多数開発している。
- ・「恐竜」に関連した観光入込客を市内の他の産業にどのように波及させるか、今後の取り組みが注目される。

【三重県四日市市】

- ・市内臨海部に集積する工場の夜景をめぐるツアーを企画し催行している事例として調査。日本各地の工場夜景ツアーのなかでも先駆的な地域である。
- ・夜景ツアーを催行するためには、工場や海運会社などの理解と協力が不可欠であり、多くの地域ではその難しさのため、ツアーが催行できない場合もある。しかし、四日市市では地元関係者の熱意と継続した取り組みによって毎週ツアーを実施している。

今回取り上げたそれぞれのツーリズムは日本の観光政策のなかでもまだ萌芽的な取り組みであるため、これらの経年変化を注意深く観察して考察していきたい。

私が現在担当している科目「**観光政策サービス論**」（金曜 4 限）では現在の観光政策の一つとしてニューツーリズムを解説する回がある。そのため、**本研究で得られた知見は学生教育の場に還元**されており、研究の成果の 1 つと言える。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

五艘みどり、國井大輔、平形和世、山田耕生（2023）：ルーラルツーリズム推進組織の持続的運営に向けた組織間連携のあり方—オーストリアにおける聞き取り調査をもとに—，観光研究 35-1，79-86

【著書・論文（査読なし）】

【学会発表等】

山田耕生（2023）：日本におけるルーラルツーリズムおよび推進組織の現状，日本観光研究学会第 38 回全国大会ワークショップ

KOSEI YAMADA, MIDORI GOSO, DAISUKE KUNII, KAZUYO HIRAKATA (2024) Characteristics of Rural Tourism Promotion Organizations in Europe and Their Potential Application to Japan: Comparative Study of Italy, Austria, France and Japan. International Geographical Congress 2024. （8 月に予定）

3. 主な経費

2023 年 7 月、新潟県佐渡島において現地調査を実施した。

2023 年 7 月、福島県富岡町および周辺地域において現地調査を実施した。

2024 年 1 月、福井県勝山市において現地調査を実施した。

2024 年 3 月、三重県四日市市において現地調査を実施した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

・基盤研究（C）：平成 30 年度～令和 2 年度、代表、課題名「個人旅行者の受け入れによる農家民泊経営モデルの構築」（18K11873）＊期間再延長中

・基盤研究（B）：令和 3 年度～令和 5 年度、分担、課題名「欧州におけるルーラルツーリズムの推進組織と日本への応用可能性に関する研究」（21H03721）

・基盤研究（C）：令和 2 年度～令和 4 年度、分担、課題名「我が国ブライダルツーリズムのビジネスモデル化研究」（20K12432）

【学内研究助成】

・千葉商科大学経済研究所助成金 共同研究、課題名「訪日外国人旅行者による新婚旅行の特徴と発展可能性に関する考察」